




# 2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

2022年11月9日

(証券コード：3107)

 **ダイワボウホールディングス株式会社**

<https://www.daiwabo-holdings.com/>

ダイワボウホールディングスの西村でございます。  
2023年3月期第2四半期決算についてご説明申し上げます。

## 1. 2023年3月期 第2四半期決算

## 2. 2023年3月期 通期業績見通し

### 【参考資料】

- ▶ 収益認識に関する会計基準の適用について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

本日はこちらの項目に沿ってご説明いたします。

# ダイワボウホールディングス株式会社



<b>本社所在地</b>	〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト	
<b>設立日</b>	大和紡績として創立 ダイワボウホールディングス設立	1941年4月1日 2009年7月1日
<b>連結従業員数</b>	5,671名（2022年3月末現在）	
<b>資本金</b>	216億9,674万4,900円	
<b>株式</b>	東証プライム市場 証券コード <b>3107</b> / 業種： <b>卸売業</b> <JPX日経インデックス400構成銘柄>	
<b>事業内容</b>	<b>ITインフラ流通事業</b> [中核会社]  <b>ダイワボウ情報システム株式会社</b>	コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	<b>繊維事業</b> [中核会社]  <b>大和紡績株式会社</b>	化合繊綿、不織布製品、産業資材関連製品、衣料・リビング製品用テキスタイルおよび最終製品の製造販売業
	<b>産業機械事業</b> [中核会社]  <b>株式会社 オーエム製作所</b>	工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業
	<b>その他事業</b>	保険代理店業、エンジニアリング業

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2

当社の概要についてまとめましたのでご覧ください。  
3つの事業を有するグループですが、パソコンを主体としたIT関連機器の専門商社であるダイワボウ情報システムが売上の約90%を占めていることから、東証プライム市場での業種も卸売業となっております。  
また、今年の8月に本社所在地を移転しております。

# | 2023年3月期 第2四半期決算

それでは、2023年3月期 第2四半期決算についてご報告いたします。

## 2023年3月期 第2四半期 (2022年4月1日～2022年9月30日)

### 継続する供給不足の影響を受けながらも ITインフラ流通事業の需要回復が牽引し増収増益

#### ITインフラ流通事業

企業・官公庁向けは、半導体不足に起因した納期遅延や原価上昇の影響を受けるも、当社在庫品への切替提案を強化することで実績増加し、サブスクリプション製品も好調に推移  
文教向けにおいても高校の生徒用端末や、小中学校の教職員用端末の需要が拡大し前年実績を上回る  
コンシューマ向け市場は個人消費の低迷により売上高は前年と同水準

#### 繊維事業

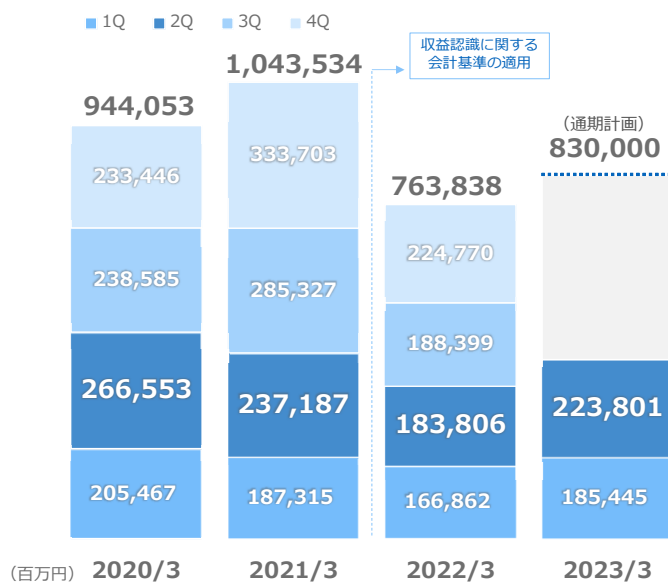
環境負荷の少ないレーヨン等は販売が増加したものの、事業全般で原燃料高や円安によるコストアップの影響を受けたことで利益面で苦戦

#### 産業機械事業

風力発電をはじめとするエネルギー業界や半導体、建設機械、医療機器等の幅広い業界への出荷やサービス売上の増加により増収増益

当期は、継続する半導体不足による製品供給の影響を受けましたが、主力のITインフラ流通事業の需要回復が牽引し増収増益となりました。  
また、世界的な問題である原燃料の高騰は、特に繊維事業に影響が出ました。  
各事業の状況については後ほどご説明いたします。

## 2023年3月期 2Q累計 売上高



売上高 **409,246**百万円

前年同期比 + **16.7%**

▶ 取扱高 **436,265**百万円

取扱高は、過去2番目の上期実績  
進捗率 上期 **108.5%** / 通期 **49.3%**

※「収益認識に関する会計基準」の適用についてはP37に記載しています。

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

5

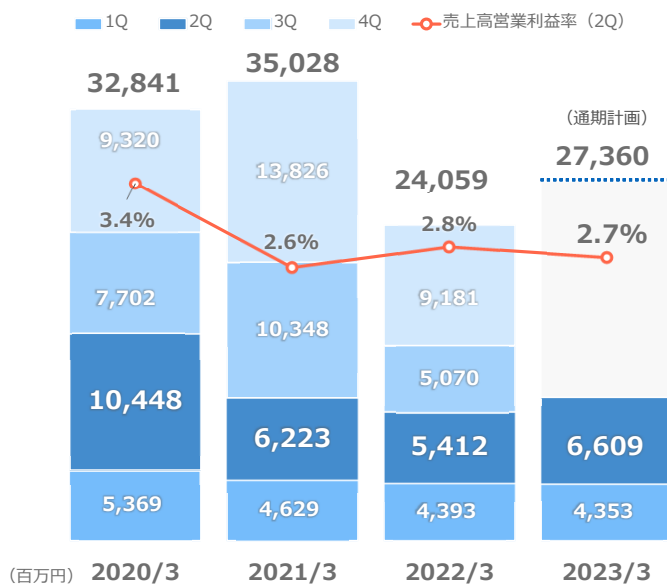
こちらは連結売上高の推移です。

第2四半期売上高は4,092億円。

前期比で16.7%の増収、計画比108.5%の結果となりました。

取扱高としては、Windows更新や消費増税による需要があった2020年3月期に次ぐ過去2番目の上期実績となりました。

## 2023年3月期 2Q累計 営業利益



営業利益 **10,963**百万円

前年同期比 +**11.8%**

営業利益率 **2.7%**

上期実績では過去2番目の営業利益

進捗率 上期 **99.3%** / 通期 **40.1%**

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

次に営業利益の推移です。

第2四半期は109億円、前期比11.8%の増益となりました。

上期計画比は99.3%と若干未達となりましたが、不安定な市場環境の中、ほぼ予定通り推移しており、売上高同様に過去2番目の上期実績となります。

## 2023年3月期 2Q累計 連結決算概況



(百万円)	2022/3 2Q	2023/3 2Q	増減	前期比	通期予想	進捗率
売上高	350,668	<b>409,246</b>	+58,577	+16.7%	830,000	49.3%
営業利益	9,806	<b>10,963</b>	+1,156	+11.8%	27,360	40.1%
経常利益	9,883	<b>11,212</b>	+1,328	+13.4%	27,500	40.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,015	<b>7,670</b>	+654	+9.3%	18,600	41.2%
1株当たり 四半期純利益 (円)	73.36	<b>81.17</b>				

(百万円)	2022/3	2022/9	増減	主な増減理由
総資産	356,203	<b>366,388</b>	+10,185	現金および在庫の増加
純資産	136,173	<b>140,216</b>	+4,043	利益剰余金の増加
自己資本比率	38.0%	<b>38.0%</b>		

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

7

第2四半期の連結決算概況はご覧の通りです。

経常利益は、前期比13.4%増の112億円、純利益は、前期比9.3%増の76億円、1株当たり四半期純利益は、81円となっております。

連結財政状態について、総資産は、現金および在庫の増加により前期比101億円増の3,663億円、純資産は、利益剰余金の増加などにより前期比40億円増の1,402億円となっております。

なお自己資本比率は、前期末と同じ38.0%となっております。



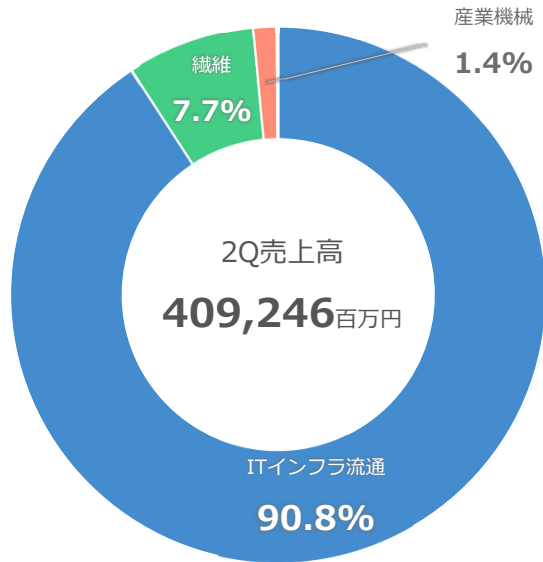
## 2023年3月期 2Q累計 セグメント別業績



(百万円)		2022/3 2Q	2023/3 2Q	増減	前期比
売上高	ITインフラ流通	315,155	<b>371,705</b>	+56,550	+17.9%
	繊維	29,360	<b>31,356</b>	+1,995	+6.8%
	産業機械	5,727	<b>5,804</b>	+76	+1.3%
	その他	424	<b>379</b>	△44	△10.5%
	合計	350,668	<b>409,246</b>	+58,577	+16.7%
営業利益	ITインフラ流通	8,556	<b>9,739</b>	+1,182	+13.8%
	繊維	957	<b>718</b>	△239	△25.0%
	産業機械	302	<b>437</b>	+135	+44.8%
	その他	△12	<b>58</b>	+70	—
	(調整額)	1	9	7	—
合計	9,806	<b>10,963</b>	+1,156	+11.8%	

つづきまして当期のセグメント別業績です。  
2Q累計での売上げ実績になりますが、ご覧の通りITインフラ流通事業が大きく牽引する結果となりました。

# セグメント構成割合



## 売上高構成割合

	2022/3 2Q	2023/3 2Q
ITインフラ流通	89.9%	<b>90.8%</b>
繊維	8.4%	<b>7.7%</b>
産業機械	1.6%	<b>1.4%</b>

## 営業利益構成割合

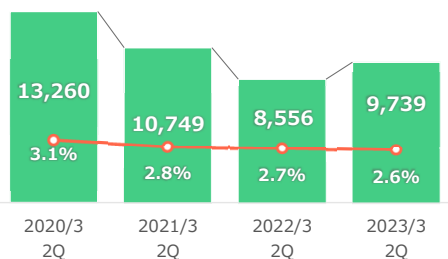
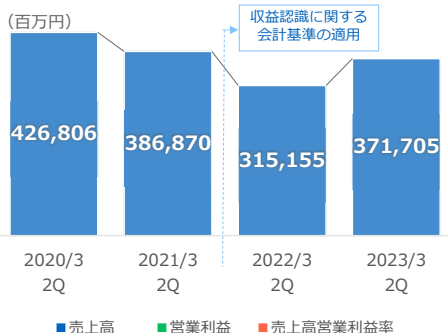
	2022/3 2Q	2023/3 2Q
ITインフラ流通	87.3%	<b>88.8%</b>
繊維	9.8%	<b>6.6%</b>
産業機械	3.1%	<b>4.0%</b>

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

9

セグメントの構成割合はご覧のとおりです。  
ITインフラ流通事業の売上げ構成比は90.8%、営業利益では88.8%となっております。

# ITインフラ流通事業



取扱高 ※旧基準売上高 **398,724**百万円 (前期比+14.5%)  
 売上高 **371,705**百万円 (前期比+17.9%)  
 営業利益 **9,739**百万円 (前期比+13.8%)

PC出荷台数	144.5万台 (前期比+8.7%)
サーバー出荷台数	2.8万台 (前期比+9.1%)
サブスクリプション取扱高	41,546百万円 (前期比+21.3%)
iKAZUCHI(雷)取扱高	9,620百万円 (前期比+38.2%)

## 事業概況

### コーポレート向け市場

- 企業・官公庁向けは、半導体不足に起因した納期遅延や原価上昇の影響を受けるも、当社在庫品への切替提案を強化することでPCやネットワークを中心に実績増加し、サブスクリプション製品も好調に推移し契約数増加
- 文教市場においても高校の生徒用端末や、小中学校の教職員用端末の需要が拡大し前年実績を上回る

### コンシューマ向け市場

- 量販店向けの販売は伸長したものの、個人消費の低迷によりEC向け販売が減収となり売上高は前年と同水準

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

10

セグメント別に実績をみていきます。

まずはITインフラ流通事業です。

企業・官公庁向けを中心に、半導体不足による納期遅延や原価上昇の影響を受けましたが、在庫商品への切替提案を強化することで、PCやネットワーク製品を中心に実績が増加しました。

また注力カテゴリであるサブスク製品においても好調に推移しました。

文教市場においても、高校の生徒用端末や、小中学校の教職員用端末の需要が拡大し、前年実績を上回っております。

コンシューマ向け市場では、量販店向けの販売は伸びたものの、個人消費の低迷によりEC販売が減少し、売上高は前年同水準となりました。

以上の結果、ITインフラ流通事業の売上高は、前期比17.9%増収の3,717億円となり、営業利益は前期比13.8%増の97億円となりました。

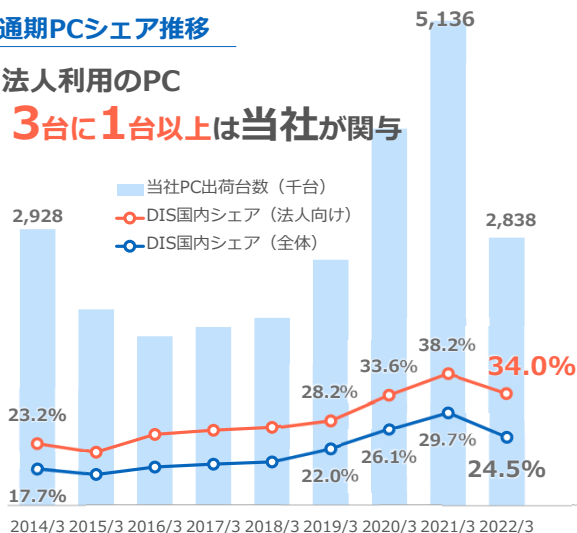
# 国内PCマーケットシェア・商品カテゴリ構成



## 通期PCシェア推移

### 法人利用のPC

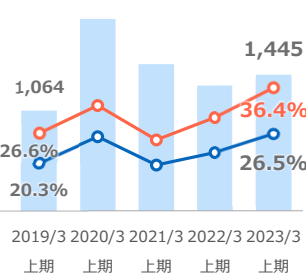
**3台に1台以上は当社が関与**



## 上期実績推移

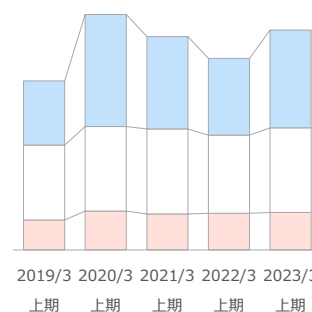
### 国内PCマーケットシェア

法人向け **36.4%**  
 全体 **26.5%**  
 PC出荷台数 **+8.7%**



### DISカテゴリ別取扱高

前年比  
 PC本体\* **+27.0%**  
 周辺機器・サービス等 **+8.4%**  
 ソフトウェア **+2.4%**



※MM総研調査結果より算出  
 (2023/3上期は調査会社の速報値をベースにしているため、シェアの公表値を変更する可能性があります)

\*PC本体=PC、サーバー、タブレット、スマートフォン等の端末本体

こちらは国内PC出荷台数における当社のマーケットシェアとカテゴリ別の売上高推移です。

中央のグラフをご覧ください。

上期のPC出荷台数は144万5千台で、シェアは全体で26.5%、法人向けの市場に限れば36.4%となり、いずれも前年に比べて上昇しています。

供給不足といわれる市場においても、当社の強みであるマルチベンダーとしての調達力を発揮できたと考えております。

また、カテゴリ別に見ても、PCの大幅な伸びとともに、周辺機器やソフトウェアも順調に成長していると捉えております。

なおソフトウェアは、販売形態が徐々にサブスクに切り替わることで、一時的な減収とはなりますが、それを上回る販売拡大により、着実な増収となっております。

# サブスクリプションビジネス実績

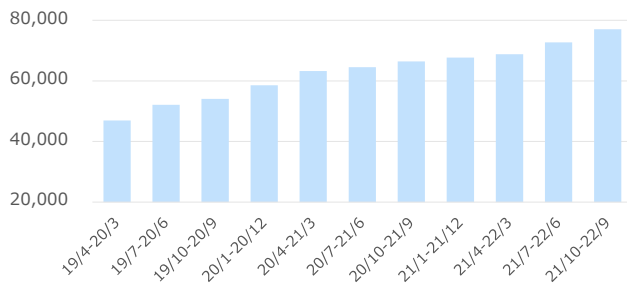


## サブスクリプション取扱高 (DIS単体)

2022/3 上期 **34,244** **+21.3%** 2023/3 上期 **41,546**

▶直近12か月合計 **78,102**

■ 12か月合計取扱高の推移 (年額課金等を考慮)



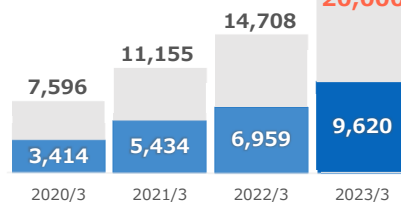
### サブスクリプション

課金形態 (月額・年額・従量等) を問わず、ユーザーが契約終了しない限り継続的に収益が見込める商品・サービスとして定義

## iKAZUCHI(雷)取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」を通じた販売パートナーへの販売総額

前期比 **+38.2%** 2023/3 目標 **20,000**



### 対応ベンダー・サービス数

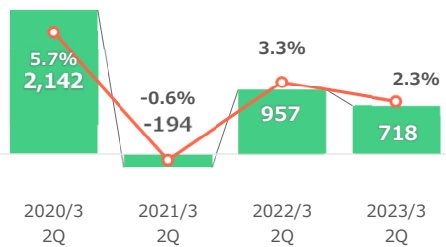
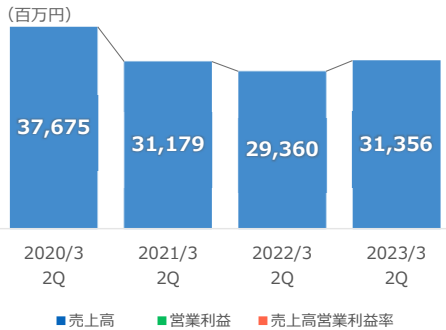
88ベンダー **▶** 100ベンダー  
181サービス (2022/3) **▶** 197サービス (2022/9)



サブスクリプションビジネスの市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化

こちらはサブスクビジネスの実績です。  
取扱高は、前期比21.3%増の415億円となりました。  
スライド左側の青いグラフで示しているとおおり、継続課金による取り扱い規模は着実に拡大しています。  
またDISオリジナルの管理ポータルであるiKAZUCHI (雷) ですが、取り扱いベンダー数やサービスメニューの件数も着実に増え、上期の販売パートナーへの販売総額は、前期比38.2%増の96億20百万円となりました。

# 繊維事業



売上高 **31,356**百万円 (前期比+6.8%)

営業利益 **718**百万円 (前期比△25.0%)

## 事業概況

合織・レーヨン部門	■ 行動制限の緩和や猛暑の影響によりコスメ商材や制汗シートの販売が伸長し、環境負荷の少ないレーヨン素材は好調だが、衛材用原綿や不織布は苦戦し増収減益
産業資材部門	■ 半導体不足により自動車用ゴムスポンジは伸び悩むも、カートリッジフィルターが堅調に推移および合織帆布の回復が進み増収増益
衣料製品部門	■ 米国向け販売の好調や国内での衣料消費の持ち直しなど、需要回復の兆しは見られるものの、原料高及び急激な円安の影響を受け増収減益

【ご参考】 21/3 2Qに不適切取引の影響額を反映しております (2020/12/11開示)

	2021/3 2Q	
	影響額	影響除外時
売上高	△640百万円	31,819百万円
営業利益	△1,994百万円	1,800百万円

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

13

続いて繊維事業です。

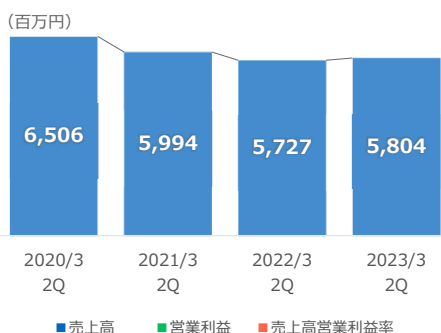
合織・レーヨン部門では、行動制限の緩和や猛暑の影響により、コスメ商材や制汗シートの販売が伸長し、環境負荷の少ないレーヨン素材は好調に推移しましたが、衛材用原綿や不織布は苦戦し増収減益となりました。

産業資材部門では、半導体不足により自動車用ゴムスポンジは伸び悩むも、電子部品メーカー向けのカートリッジフィルターの需要は堅調に推移し、合織帆布の需要回復もみられ増収増益でした。

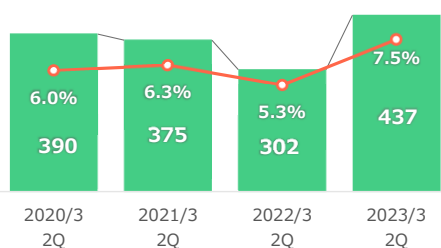
一方で衣料製品部門では、米国向け販売や国内での衣料消費の持ち直しは見られるものの、原料高および急激な円安の影響を受け増収減益となりました。

以上の結果、繊維事業の売上高は、前期比6.8%増の313億円、営業利益については、事業全般で原燃料高や円安によるコストアップの影響を受け、前期比25.0%減の7億円となりました。

# 産業機械事業



売上高 **5,804**百万円 (前期比+1.3%)  
 営業利益 **437**百万円 (前期比+44.8%)



事業概況	
工作機械部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本工作機械工業会の4~9月受注総額は前期比14%増となる中、国内は補助金を活用した設備投資や中国向けの回復により、受注高は前期比23.3%増加</li> <li>■ 風力発電や高効率ガスタービンで需要のあるエネルギー業界、半導体、建設機械、医療器械等幅広い業界への出荷やサービス売上の拡大により増収増益</li> </ul>
自動機械部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多様化するユーザーニーズに対応し、受注高は前期比20.0%増加</li> <li>■ 受注高は回復傾向にあるものの、昨年実績をカバーできず本体の出荷台数も減少したことから減収減益</li> </ul>

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

産業機械事業です。

工作機械部門においては、主力の航空機、鉄道業界の回復が遅れていますが、風力発電や高効率ガスタービンで需要のあるエネルギー業界や、半導体、建設機械、医療器械など幅広い業界への出荷やサービス売上の拡大により増収増益となりました。

自動機械部門では、多様化するユーザーニーズに対応し受注高は前期比20%増となりましたが、本体の出荷台数が減少し昨年実績をカバーできず苦戦しました。以上の結果、産業機械事業の売上高は、前期比1.3%増の58億円、営業利益は、前期比44.8%増の4億円となりました。

## 2023年3月期 2Q 連結貸借対照表 (決算短信P3-4)



(百万円)	2022/3	2022/9	増減		2022/3	2022/9	増減
<b>流動資産</b>	304,134	<b>315,109</b>	+10,974	<b>流動負債</b>	191,564	<b>200,683</b>	+9,118
現金及び預金	46,963	<b>51,123</b>	+4,160	支払手形及び買掛金	161,859	<b>164,382</b>	+2,522
受取手形及び売掛金	202,408	<b>198,082</b>	△4,326	短期借入金	12,589	<b>14,952</b>	+2,363
商品及び製品	38,478	<b>46,767</b>	+8,289	<b>固定負債</b>	28,465	<b>25,489</b>	△2,976
<b>有形固定資産</b>	38,272	<b>38,142</b>	△129	長期借入金	14,895	<b>12,011</b>	△2,883
<b>無形固定資産</b>	2,462	<b>2,271</b>	△191	<b>負債合計</b>	220,030	<b>226,172</b>	+6,142
<b>投資その他の資産</b>	11,333	<b>10,864</b>	△469	<b>純資産合計</b>	136,173	<b>140,216</b>	+4,043
				自己株式	△2,123	<b>△4,704</b>	△2,581
<b>資産合計</b>	356,203	<b>366,388</b>	+10,185	<b>負債純資産合計</b>	356,203	<b>366,388</b>	+10,185

現金及び預金	46,963	→	<b>51,123</b>	+4,160
商品及び製品	38,478	→	<b>46,767</b>	+8,289
借入金合計	27,484	→	<b>26,964</b>	△519

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

15

続きまして、貸借対照表について補足させていただきます。  
 総資産は、現金や在庫の増加等により前期末に比べて101億円増加の3,663億円。  
 純資産は、利益剰余金の増加などにより前期末に比べて40億円増加の1,402億円  
 となっております。



## 2023年3月期 2Q累計 連結損益計算書 (決算短信P5)



(百万円)	2022/3 2Q		2023/3 2Q		増減	前期比
	実績	率	実績	率		
売上高	350,668		<b>409,246</b>		+58,577	+16.7%
売上総利益	29,699	8.5%	<b>31,444</b>	<b>7.7%</b>		
販売費及び一般管理費	19,893	5.7%	<b>20,480</b>	<b>5.0%</b>		
営業利益	9,806	2.8%	<b>10,963</b>	<b>2.7%</b>	+1,156	+11.8%
経常利益	9,883	2.8%	<b>11,212</b>	<b>2.7%</b>	+1,328	+13.4%
特別利益	342		<b>58</b>			
特別損失	0		<b>44</b>			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,015	2.0%	<b>7,670</b>	<b>1.9%</b>	+654	+9.3%

特別利益 固定資産売却益 (26百万円)、投資有価証券売却益 (25百万円)

特別損失 事務所移転に伴う固定資産除却 (44百万円)

同じく損益計算書となります。

売上高、各利益についてはサマリーで報告した通りですが、売上総利益については、前期比17億円増の314億円となりました。

売上総利益率は前期の8.5%から0.8%低下し7.7%となっております。

販売費及び一般管理費は、販売費を中心に前期比5億円増の204億円となりましたが、販管費比率については、0.7%低下し5.0%となりました。

## | 2023年3月期 通期業績見通し

続きまして、2023年3月期の業績見通しについてご説明します。

## 2023年3月期 通期業績予想



(百万円)	2022/3 (実績)		2023/3 (予想)		増減	前期比
	金額	率	金額	率		
<b>売上高</b>	763,838		<b>830,000</b>		+66,161	+8.7%
ITインフラ流通	691,281		<b>754,820</b>		+63,538	+9.2%
繊維	58,289		<b>62,060</b>		+3,770	+6.5%
産業機械	11,610		<b>12,480</b>		+869	+7.5%
<b>営業利益</b>	24,059	3.1%	<b>27,360</b>	3.3%	+3,300	+13.7%
ITインフラ流通	21,651	3.1%	<b>23,700</b>	3.1%	+2,048	+9.5%
繊維	1,617	2.8%	<b>2,760</b>	4.4%	+1,142	+70.7%
産業機械	656	5.7%	<b>890</b>	7.1%	+233	+35.7%
<b>経常利益</b>	24,554	3.2%	<b>27,500</b>	3.3%	+2,945	+12.0%
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	16,988	2.2%	<b>18,600</b>	2.2%	+1,611	+9.5%

売上高は8300億円。営業利益は273億円を予想しており変更はございません。  
セグメント別では、多少前後する見込みですが達成を目指して参ります。

# ITインフラ流通事業の重点施策



## ITデバイス流通におけるカテゴリごとのシェア獲得

- ▶ 半導体不足に伴う納期対応と戦略的商材による優位性の確保
- ▶ IT機器ラインナップの強化と多様な購入形態への対応
- ▶ GIGAスクール端末活用等による文教市場でのシェア向上

## 高度サポート機能の実装・強化

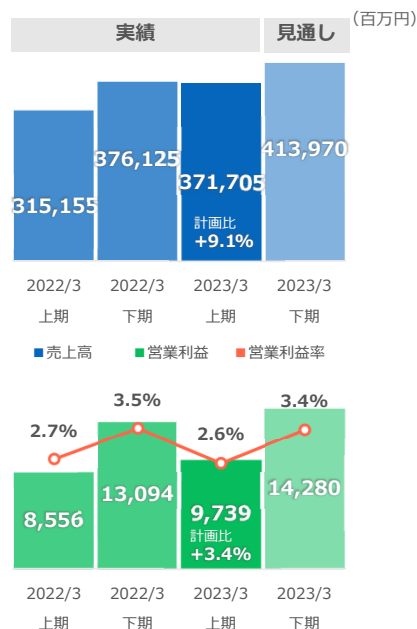
- ▶ 高度化するIT基盤の支援体制強化と中核メーカーとの協業深化
- ▶ エンジニア集団の育成とオリジナルサービス展開による差別化

## クラウドディストリビューターとしてのブランディング

- ▶ iKAZUCHI(雷)の機能拡充とブランディング強化
- ▶ IaaS/PaaS推進によるIT基盤のマイグレーション需要の獲得

## サプライチェーン全体につながる生産性向上

- ▶ RPA・BIツール等の活用による営業活動強化、SFA活用による戦術化支援などの継続的な情報システムへの投資
- ▶ 電子商取引の活用等によるローコストオペレーションの推進



©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

次に各事業における23年3月期の重点施策についてご説明します。

まずはITインフラ流通事業です。

既存のビジネス領域の拡大とあわせて、クラウドをはじめとした成長分野におけるマーケットの創造と、サプライチェーン全体につながる生産性向上に取り組みます。

半導体不足などの市場環境に適切に対応することで、需要を獲得し着実な成長につなげてまいります。

# iKAZUCHI(雷)



## サブスクリプション管理ポータル



- 月額/年額/従量などの課金形態に対応
- 顧客単位でリアルタイム管理
- 複数サービスを一括管理
- エンドユーザー向けの情報提供



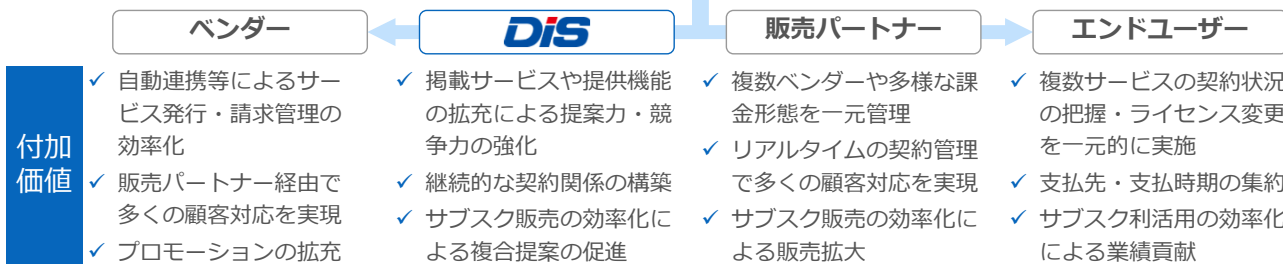
全国の販売パートナーのサブスクビジネスを支援

## iKAZUCHI(雷)掲載サービス

100ベンダー / 197サービス  
(2022年9月現在)



コラボレーション	業務基盤・システム基盤
セキュリティ・管理	デザイン・クリエイティブ
ヒューマン・リソース	営業・マーケティング



## iKAZUCHI(雷)で安定的な収益基盤を確立

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

20

ITインフラ流通事業では『クラウドディストリビューター』を目指す戦略を掲げておりますが、その中核を担うiKAZUCHIについてご説明します。

iKAZUCHIはDISが販売パートナー向けにご提供しているオリジナルのサブスク管理用ポータルサイトです。

DISの販売パートナーであれば無料でご利用いただけます。

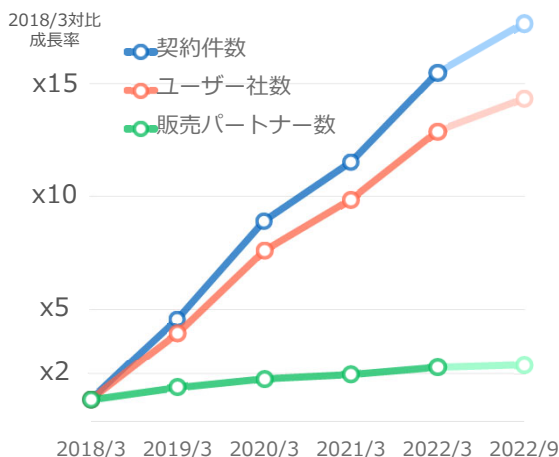
9月現在で100ベンダー、197サービスを取り揃え、月額・年額課金、従量課金などの様々な自動更新型のクラウドサービスを共通のプラットフォームで提供することができます。

サブスク販売は、契約管理や請求処理が煩雑になりがちです。

それらに伴う販売パートナーの工数を大幅に削減することで、販売パートナーのサブスクビジネスを強力に支援します。

iKAZUCHIを利用した販売が増加することで、メーカー、販売パートナー、当社のいずれも安定的な収益基盤を確立することができます。

# iKAZUCHI(雷)

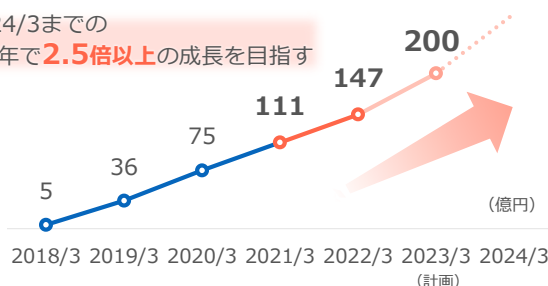


「マルチベンダー」の強みを生かして  
単独ベンダーではできない付加価値を創出



## iKAZUCHI(雷)取扱高

2024/3までの  
3カ年で**2.5倍以上**の成長を目指す



左のグラフは2018年3月期を基準とした成長率を表しています。

緑のグラフがiKAZUCHIを契約済みの販売パートナー数で、この4年間で2倍以上増えました。

さらに契約件数は17倍、ユーザー社数は約14倍拡大しており、販売パートナー1社あたりの契約数が着実に伸びていることがわかります。

これはクラウドサービスの普及が進み、利用が拡大していることに加えて、複数のサービスを組み合わせて提案できるマルチベンダーの強みを発揮できている成果と考えております。

今後も全国94拠点の営業網を駆使したサービスメニューの提案力を高めることはもちろん、契約管理機能のさらなる強化により、iKAZUCHIをさらに充実したプラットフォームに成長させて、単独ベンダーでは実現できない付加価値を生み出してまいります。

なお取扱高については、前期実績の147億円に対し、今期の目標は200億円としております。

# 戦略的商材による優位性の確保



©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

続いて、ITインフラ流通事業における戦略商材の確保について説明します。最近ようやくPCの供給不足は改善傾向となりましたが、サーバー関連やネットワーク関連製品は、引き続き品薄感や一部製品の納期長期化などの影響は続いています。

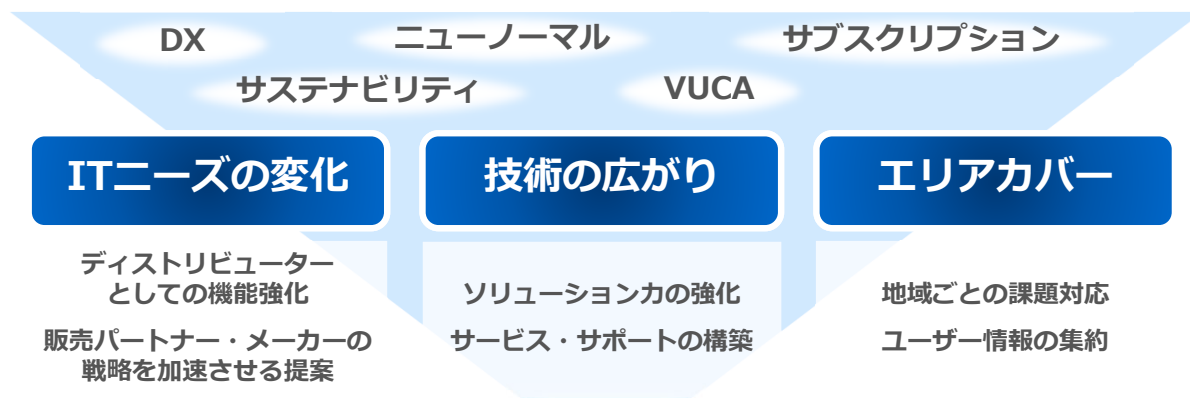
その一方で、需要面では、デジタル市場の拡大、IT人材不足、クラウドの活用などにより新たなIT投資の必要性が高まっています。

当社は全国の営業拠点から得た販売パートナーからのニーズを踏まえて、各メーカーとの連携をしっかりとることで、オリジナルモデルや売れ筋商材の確保による安定的な供給体制を整えています。

オリジナルモデルとは、DISとメーカーの共同企画によりDISが販売する限定仕様のモデルのことで、継続的な協業体制の中で業績に寄与しています。

引き続き、ITディストリビューターとして戦略的商材を調達・提供することで流通機能を強化し、優位性を確保してまいります。

## あらゆるITビジネスを支え続ける企業として



【顧客ニーズの多様化】と【テクノロジーの多様化】を効率的にマッチングして全国に展開  
パートナービジネスを進化させて「強み」を掛け合わせることで  
ITによってエンドユーザーの目的を実現する新たなビジネスモデルを構築

ITインフラ流通事業では、「あらゆるITビジネスを支え続ける企業」を標榜しています。

ITニーズの変化、技術の広がりに対応していくこと。

全国のエリアをカバーできる当社ならではの強みを活かし、従来のパートナービジネスをより進化させていくこと。

メーカー、当社、販売パートナーそれぞれの連携をより強くすることで、ITによるエンドユーザーの目的を実現する新たなビジネスモデルを構築していくことを目指しております。



# 繊維事業の重点施策



## ESGを軸にした働き甲斐のある会社への変革

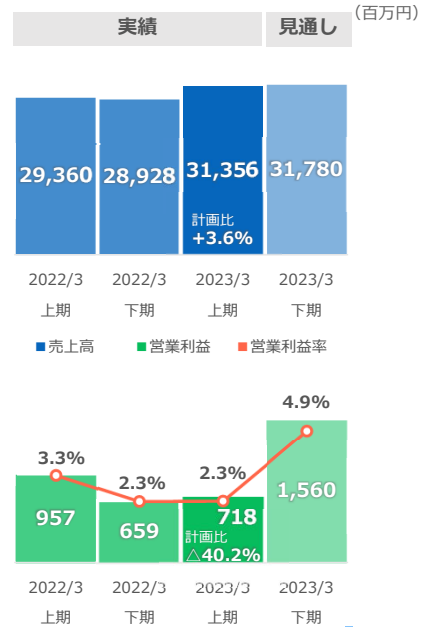
- ▶ 全社的なシステム化と現場現物重視の監査・チェック体制の強化によるコンプライアンス経営の徹底
- ▶ 人事諸制度の見直しや新制度の導入、社員教育の拡充、育成型人事ローテーションの継続実施等による労働環境整備

## ファイバー戦略の深耕による独自素材の開発強化

- ▶ 大和紡績グループの事業横断的な研究体制の確立と開発成果の最大化を意識した効率的な研究開発活動
- ▶ 当社保有のコア技術を基盤とした環境配慮型製品の創造による持続可能な社会への貢献

## 投下資金効率を意識した事業活動

- ▶ 機能素材・サステナブル素材の研究開発を生かした合繊綿・不織布およびレーヨンの販売拡大
- ▶ 産業資材工場の集約により一貫生産体制が整ったフィルター関連の需要獲得



©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

続いて繊維事業です。

市場環境としては、厳しい状況が続いていますが、コーポレートガバナンスの強化により、しっかりとした管理体制を整えた上で、研究開発機能の拡充、経営資源の最適配分を意識して事業活動に取り組んでいます。

# 【繊維事業】 継続的な構造改革



## 研究開発機能の強化

分野ごとの研究開発体制を  
播磨研究所に統合

### 環境

- リサイクル
- バイオマス・生分解
- 省エネ・軽量化

### 安全

- 防災・難燃
- 地盤、セメント補強
- 重金属・有害物質吸着

3つの開発キーワードを  
軸とした素材開発

### 健康

- 抗菌・抗ウイルス
- 水・空気浄化
- 肌に優しい素材

産官学連携

マーケットニーズ

コア技術・知的財産

## 生産拠点の集約

産業資材部門工場の移設・集約完了

需要が堅調なフィルターの  
一貫生産体制を構築

**生産能力30%増**

ガバナンス強化  
資本効率改善

## 事業会社の再編

- 2020.04 各部門の事業子会社を吸収合併することで大和紡績(株)を中核事業会社化
- 2021.03 香港子会社の解散、海外事務所の閉鎖
- 2021.05 非繊維部門の整理 (ホテル業 終了)
- 2021.09 非繊維部門の整理 (エンジニアリング業 規模縮小)
- 2021.10 衣料製品部門の子会社間合併
- 2022.03 衣料製品部門子会社の株式譲渡
- 2022.06 産業資材部門子会社の株式譲渡

構造改革にも積極的に取り組んでおり、分野ごとの研究開発体制の統合や、産業資材部門の工場集約、事業会社の再編などを進めております。特に研究開発については、環境・安全・健康の3つの開発キーワードを軸に開発成果の最大化と持続可能な社会に貢献できるよう取り組んでまいります。

# 産業機械事業の重点施策



## 工作機械における潜在市場への事業拡大

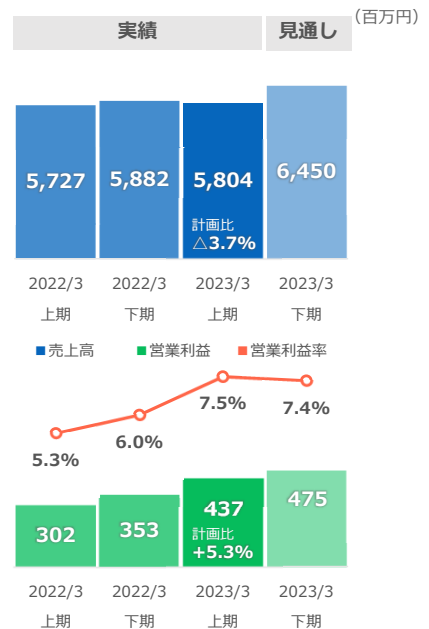
- ▶ 更新需要が見込めるエネルギー関連における新型機開発と補助金採択を活用した提案力の向上
- ▶ 堅調な中国市場におけるエネルギー・半導体・医療機器業界を中心とした現地での販売促進

## 自動機械における包装機自動化需要の取り込み

- ▶ カートン補給装置や需要が拡大する内食市場の受注拡大に向けた展示会等による販促活動の強化
- ▶ 製品リスク管理の実効性確立およびコストダウン・機能強化による利益体質の改善

## サービス強化による収益力向上

- ▶ サービス会社とのアライアンスと技術教育実施によるサービス体制の拡大
- ▶ 納入済み機械の稼働状況をフォローすることで改造等のサービス提案を強化



©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

次に産業機械事業です。

主力の航空機業界の回復が遅れる中でも、需要の見込める業界や市場にしっかりとフォーカスした提案に注力すると同時に、サービス関連のビジネスを拡大することで収益力向上に取り組んでおります。

また航空機分野の需要回復に備えて、営業・サービス体制の強化もはかってまいります。

- 対象期間 **2022年3月期～2024年3月期** (3カ年計画)
- 位置づけ **「将来にわたる発展を見据えた転換期」**
  - ▶ 持続的成長に向けた『ビジネスモデル変革』への挑戦期間
  - ▶ ESG視点での事業を通じた社会課題解決への貢献
  - ▶ 未来を創る人材価値の最大化

### グループ 基本方針

- 01 次世代成長ドライバーの創出
- 02 リーディングカンパニーとして新たな社会作りへの貢献
- 03 経営基盤変革

続いて、昨年5月に発表した中期経営計画について振り返りたいと思います。当社グループではこの3年間で「将来にわたる発展を見据えた転換期」と位置づけ、ビジネスモデルの変革やESG視点での事業運営、人材育成に注力しております。

## 中期経営計画の進捗状況 <収益指標>

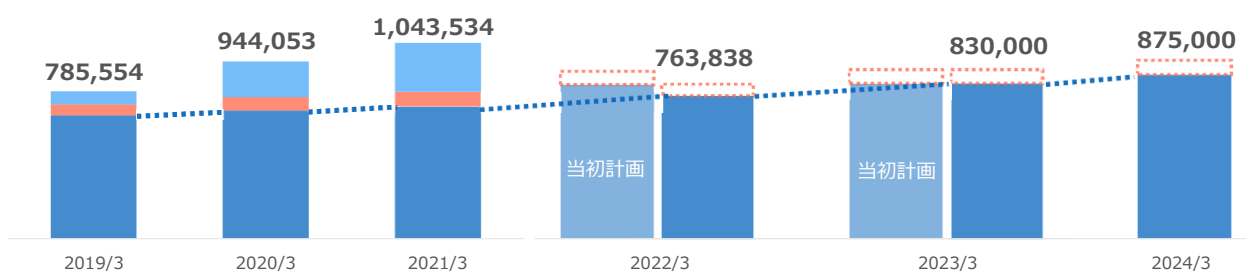


(百万円)	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3		
	(実績)	(当初計画)	(実績)	(当初計画)	(業績予想)	(計画)
売上高	1,043,534	820,000	<b>763,838</b>	830,000	<b>830,000</b>	<b>875,000</b>
営業利益	35,028	28,500	<b>24,059</b>	28,600	<b>27,360</b>	<b>31,400</b>
営業利益率	3.4%	3.5%	<b>3.1%</b>	3.5%	<b>3.3%</b>	<b>3.6%</b>

→収益認識に関する会計基準を適用

<売上高推移イメージ>

- 集中的な端末需要に伴う売上高 ※一定条件に基づく概算  
(Windows更新・GIGAスクール構想・テレワーク需要等)
- 収益認識基準適用の概算影響額 ※実績に基づく試算



©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

28

中期経営計画の収益指標に対する進捗状況をご説明します。

初年度である前期の実績は、売上高・営業利益ともに当初計画を下回ることとなりました。

2年目となる今期については、当初計画に対して売上げは計画通り、営業利益は減益の見通しを立てております。

売上高の推移をグラフで表しておりますが、2021年3月期までの集中的な端末需要や、収益認識基準適用の影響を除いた青いグラフの土台部分を着実に成長させることで、最終年度の目標に向けて取り組んでまいります。

## 中期経営計画の進捗状況 <グループ経営指標>



**ROE 14%以上**

自己資本当期純利益率  
<株主資本に対するリターン>

2022/3実績 **12.9%**    2023/3予想 **13.1%**    最終年度  
達成を目指す

株主資本コスト

**8.6%**

(現状の自社認識)

**ROIC 11~12%水準維持**

投下資本利益率  
※税引後営業利益 / (純資産 + 有利子負債)  
<投下資本に対するリターン>

2022/3実績 **10.4%**    2023/3予想 **11.0%**    11~12%  
維持を目指す

WACC  
加重平均資本コスト

**7.0%**

(現状の自社認識)

持続的な  
企業価値向上

次にグループ経営指標のROEとROICについて、実績を振り返りたいと思います。ROEの2023年3月期の予想は13.1%を見込んでおります。こちらは最終年度に14%以上という目標の達成を目指しています。

またROICについては、11~12%の水準を3年間維持することを目標としており、2023年3月期予想は、11%を見込んでいます。

引き続き資本効率を意識した経営を行い、改善を図ってまいります。

## 中期経営計画 キャッシュ配分方針



### 基本方針

- 株主還元の充実化を適切に図る
- 既存事業の持続的成長に向けた投資を継続しつつ、新規領域への成長投資を実施
- 一定の手元流動性を確保し、戦略的な商品調達や不測の事態に備える

<キャッシュ配分項目>

配当	既存領域への成長投資	新規領域への成長投資	自己株式取得	手元流動性の確保
<p><b>1株当たり60円</b> (中間配当含む) の安定配当を基本方針としてキャッシュ状況にあわせて増配なども検討</p>	<p>既存事業の持続的成長に向けて<b>設備投資・マーケティング・研究開発・人材採用</b>などを行う</p>	<p>市場拡大が見込まれるDX関連領域を中心に<b>新たな事業の柱を育てるべく業務提携やM&amp;Aの検討</b>を開始</p>	<p>市場環境に応じて<b>機動的な自己株式の取得</b>を検討</p>	<p>ITインフラ流通事業における戦略的な商品調達に伴う資金需要および不測の事態に備えた<b>手元流動性の確保</b></p>
<p>2023年3月期 配当予想 中間<b>30円</b>+期末<b>30円</b></p>			<p>約<b>30億円</b>の自己株式を取得 取得総数 約 <b>164万株</b> / <b>1.7%</b> 取得期間 2022/5/13~2022/10/13</p>	

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

30

キャッシュ配分方針に変更はありません。  
今期も1株あたり中間配当を30円、期末配当30円の60円を予定しております。  
また、今期に約30億円の自己株式取得を行いました。  
引き続き、株主還元の充実化を適切に図ってまいります。

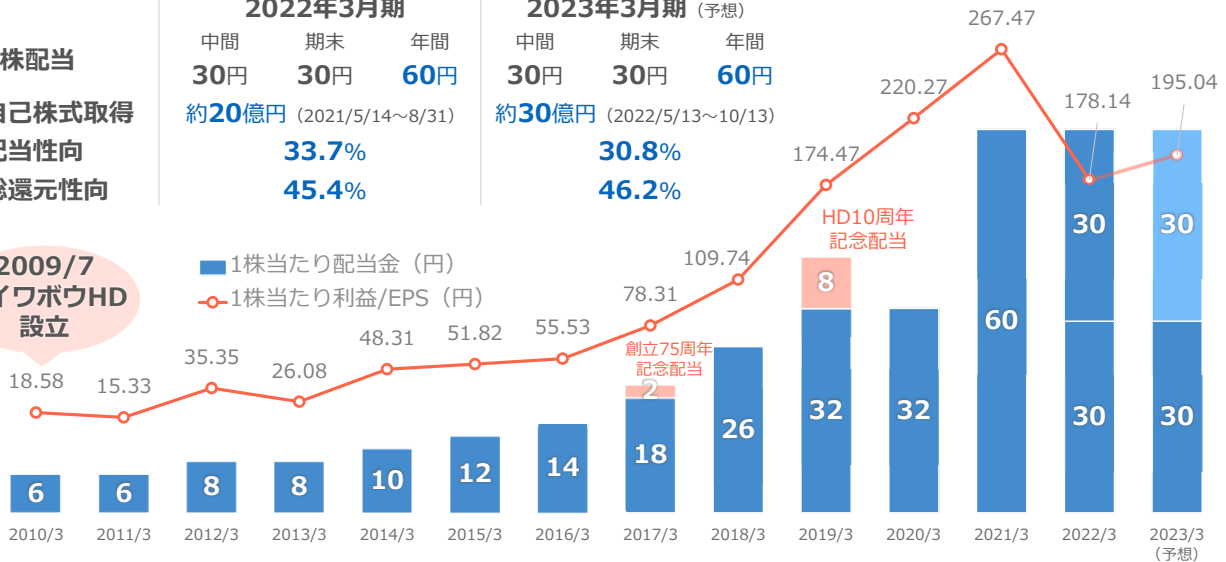
# 株主還元



	2022年3月期		
	中間	期末	年間
1株配当	30円	30円	60円
自己株式取得	約20億円 (2021/5/14~8/31)		
配当性向	33.7%		
総還元性向	45.4%		

	2023年3月期 (予想)		
	中間	期末	年間
1株配当	30円	30円	60円
自己株式取得	約30億円 (2022/5/13~10/13)		
配当性向	30.8%		
総還元性向	46.2%		

2009/7  
ダイワボウHD  
設立



※株式併合 (2017/10/1) ・株式分割 (2021/4/1) を過年度に遡及して表示

©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

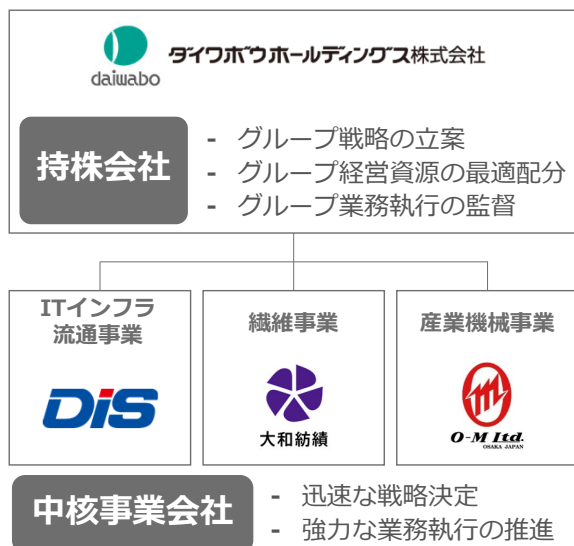
ダイワボウホールディングス設立以降の、1株あたりの配当金およびEPSの推移です。  
2023年3月期の配当性向は30.8%、総還元性向は46.2%を予想しております。



# グループガバナンス



## グループ各社の責任と権限の明確化



## 取締役会の独立性・多様性確保

独立社外取締役比率 **57%** (社内3名・独立社外4名)  
女性取締役比率 **29%**

## 取締役に對する株式報酬制度導入

- 〔目的〕 中長期的な企業価値向上へのインセンティブ  
業績目標達成の意欲を高める  
株主の皆様との利益共有を一層進める
- 〔対象〕 ダイワボウホールディングス取締役 (社外除く)  
中核事業会社 常勤取締役
- 〔制度〕 役員報酬BIP信託

続きまして、グループガバナンスについてご説明します。  
当社グループでは、各社の責任と権限を一段と明確にすることで、ダイワボウ情報システム、大和紡績、オーエム製作所の3社が、それぞれの事業の中核として迅速な戦略決定と強力な業務執行の推進を担っています。  
そして、当社、ダイワボウホールディングスは、大局的見地からグループ全体を俯瞰してグループ戦略の立案など、監督機能の強化を図っております。  
当社の取締役会は、独立社外取締役が4名、うち女性取締役が2名、そして社内取締役が3名で構成されており、独立性および多様性を確保しております。  
さらに、本年6月の定時株主総会で、取締役に對する株式報酬制度導入を決議いたしました。  
これにより、中長期的な企業価値向上に向けて、より一層のグループガバナンス強化を図ってまいります。

## TCFD提言への対応

- 1月：CO<sub>2</sub>排出量の削減目標を公表
- 4月：TCFD提言への賛同表明およびTCFDコンソーシアムへの加盟
- 6月：TCFD提言に基づく情報を開示



主なリスク		想定される主な取り組み
政策/法的	炭素価格などコスト増加	低炭素エネルギーへの移行
技術	研究開発コスト増加	外部研究機関との連携
急性	災害による操業停滞	BCP対策強化
主な機会		想定される主な取り組み
製品・サービス	気候変動の緩和や適応に資する商品・サービスの提供	将来のIT需要を見込んだ仕入計画策定
		生分解性素材や防災・減災商品の拡販
		省エネ・油圧レス・自動化等の商品展開

## ESG外部評価

2022年、MSCI ESG評価で「BBB」の評価を受けました



GPIF 5つのESG指数のうち、下記2つの構成銘柄に採用されています

2022 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

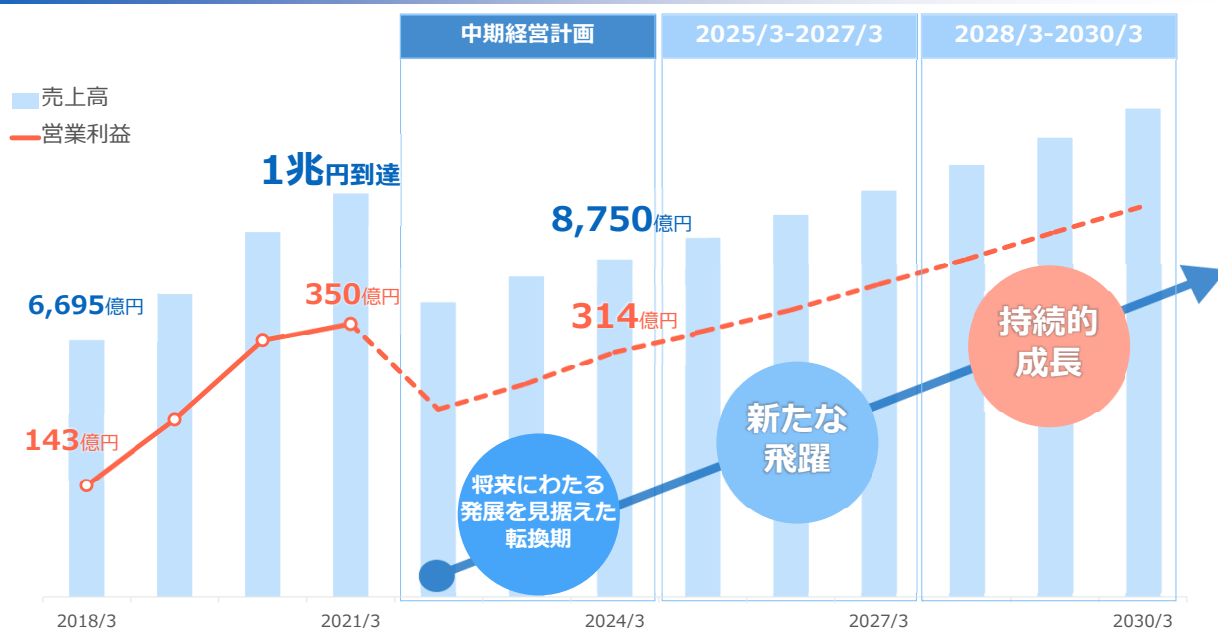


※1 ダイワホールディングス株式会社による MSCI ESG リサーチ LLC またはその関連会社（「MSCI」）のデータの使用、および MSCI のロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCI によるダイワホールディングス株式会社への譲渡、承認、推薦、またはプロモーションを意味するものではありません。MSCI のサービスおよびデータは MSCI またはその情報提供者の所有物であり、「現状のまま」提供され、保証はありません。MSCI の名称およびロゴは、MSCI の商標またはサービスマークです。

※2 ダイワホールディングス株式会社の MSCI 指数への組み入れ、および本リリースにおける MSCI のロゴ、商標、サービスマークまたは指数名称の使用は、MSCI またはその関連会社によるダイワホールディングス株式会社への譲渡、保証、承認には該当しません。MSCI 指数は MSCI の独占的財産です。MSCI 指数の名称およびロゴは MSCI またはその関係会社の商標またはサービスマークです。

当社はESG推進委員会を設置しておりますが、さらなる推進強化のため、今年4月にESG推進室を新設、ホームページ上でニュースリリースも行っておりますが、TCFD賛同を表明し、TCFDコンソーシアムにも参加しました。6月には、TCFD提言に基づく情報開示も行い、順次対応していく予定です。今後も、ESGデータの情報開示を推し進めるとともに、CO<sub>2</sub>削減や、ダイバーシティへの取り組みなどSDGsが示す社会課題がもたらすリスクを認識し、社会課題の解決を新たな事業を創出する機会ととらえ、グループとしての取り組みを更に加速させてまいります。

## 中長期的な成長イメージ



©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

34

最後に今後の成長イメージをあらためてお伝えしたいと思います。  
 この3ヵ年、需要反動や供給不足の環境を乗り越え、新たな飛躍と持続的な成長につなげることで、グループを挙げてステークホルダーの皆様から長く信頼いただける会社を目指してまいります。  
 これからもご支援を賜りますようお願い申し上げます。  
 説明は以上となります。  
 ご清聴いただき、ありがとうございました。

## 参考資料

- ▶ 収益認識に関する会計基準の適用について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

# 中期経営計画と業績予想の差異

(2022/5/12開示)



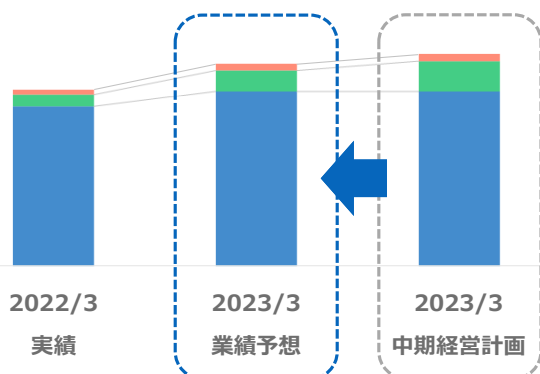
## 営業利益 (百万円)

- ITインフラ流通事業
- 繊維事業
- 産業機械事業

2023/3  
業績予想 [A]  
23,700  
2,760  
890

2023/3  
中期経営計画 [B]  
23,700  
4,000  
950

[A]/[B]  
±0.0%  
△31.0%  
△6.3%



### ITインフラ流通事業

□ 受注済み案件や成長分野への注力により増収を見込むも、半導体不足に伴う提案・調整などの工数増加等を想定し、利益見通しは同水準を維持

### 繊維事業

□ 原燃料価格の高止まりと需要回復の遅れにより、中期経営計画に対して利益見通しを引き下げ

### 産業機械事業

□ 全体としては売上確保を想定するも、原材料高騰や自動機械の受注状況を踏まえ、利益見通しをやや引き下げ

# 収益認識に関する会計基準の適用について



2022年3月期より企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」を適用し、主にITインフラ流通事業の一部取引について売上高の計上方法を変更

(概算：億円)	2022/3 (実績)	2023/3 (予想)	増減
売上高	①旧基準	8,287	8,910 +622 +7.5%
	②新基準	7,638	8,300 +661 +8.7%
	②-①	△648	△610
営業利益	240	273 +33 +13.7%	
営業利益率	①旧基準	2.9%	3.1%
	②新基準	3.1%	3.3%

## <主な変更点>

### ■ 代理人取引に係る収益認識

ITインフラ流通事業における**保守・保証サービス、ソフトウェア（継続課金等）販売**などの取引の一部について、販売先への商品・サービスの提供における当社の役割が、会計基準上の「代理人」に該当するため収益認識の方法を変更

【旧基準】：販売対価の**総額** (A) を売上計上



【新基準】：販売対価の**純額** (A-B) を売上計上



## (補足) ITインフラ流通事業の「取扱高」について



**取扱高**  
Transaction Volume

- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出  
(=会計基準変更前の売上高)
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価



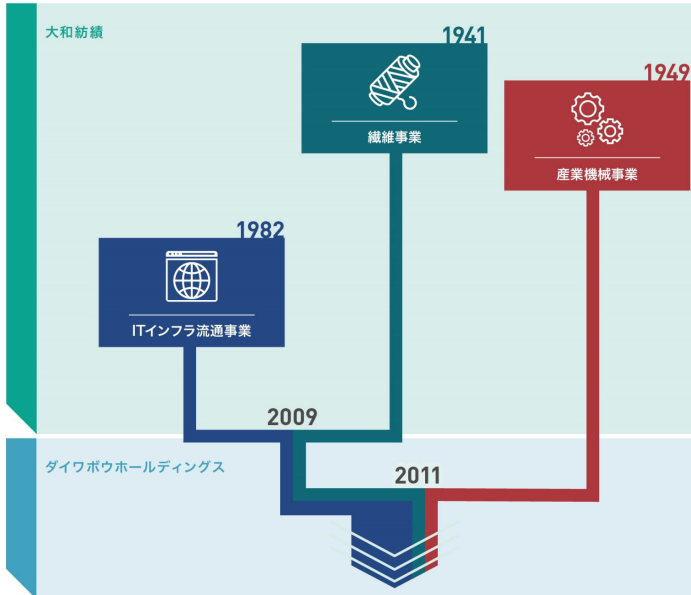
「収益認識に関する会計基準」  
適用による影響額  
(2022/3期～)

一部の保守・保証サービス、iKAZUCHI(雷)によるソフトウェア販売など、会計基準上の「代理人取引」について、販売対価の純額を売上高に計上

**売上高**  
Net Sales

- 2022年3月期以降の売上高
- 財務会計における業績評価

# グループの沿革



- 1941. 4 錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
- 1949. 5 ▶大和紡績が東証1部上場
- 1949. 7 大和紡績が宍道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立  
→その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
- 1971.11 ▶オーエム製作所が東証1部上場
- 1982. 4 大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
- 2000. 9 ▶ダイワボウ情報システムが東証1部上場
- 2009. 3 大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
- 2009. 7 大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
- 2011. 7 ダイワボウホールディングスがオーエム製作所と経営統合 ⇒**現在の主力3事業体制へ**



# 事業セグメントの概要



## ITインフラ 流通事業

**IT関連商品を取り扱う国内最大級のディストリビューター**  
 全国94拠点での地域密着営業によるパートナー企業との協業体制が強み  
 特定のメーカーに特化しない独立系マルチベンダーで、PCをはじめとした  
 世界中のメーカー約1,300社の商品・サービスを販売

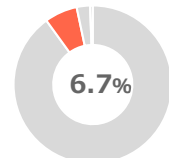
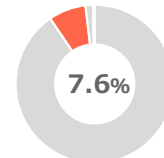


## 繊維事業

**合織・レーヨン部門** 紙おむつ等の衛生材料用途の合織綿、生分解性の高い  
 レーヨンなどの繊維素材・製品を展開

**産業資材部門** 工業資材、フィルター製品、土木資材・重布製品、ゴ  
 ム製品などの産業領域の繊維製品を展開

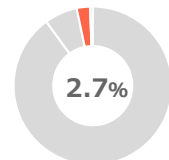
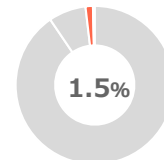
**衣料製品部門** 各種繊維原料および機能性インナーなど製品の開発と  
 製造販売、ライセンスブランド衣料品の製造販売



## 産業機械 事業

**工作機械部門** 航空宇宙分野などの重工業を中心に活用される工作  
 機械「立旋盤」の国内製造で高いシェア

**自動機械部門** 食品・医薬品など幅広い業界に対して包装・梱包の  
 自動機械を製作納入



(2022年3月期実績)

# ダイワボウ情報システム (DIS) の歩み



## 1982 DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

## 1983-1984 多店舗展開

- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

## 1998 DIS-NET稼働

- 販売管理システム「DIS-NET」を本格稼働し、創業以来の伝統である即納体制をさらに強化

## 2000 iDATEN(韋駄天)稼働

- BtoB販売支援Webサイトで24時間365日注文受付可能に

1996/3  
1,000億円突破

1999/3  
2,000億円突破

2003/3  
3,000億円突破

2000  
DIS東証1部上場

2012/3  
4,000億円突破

2009  
経営統合  
・HD体制の「ITインフラ流通事業」  
として位置づけ

2014/3  
5,000億円突破

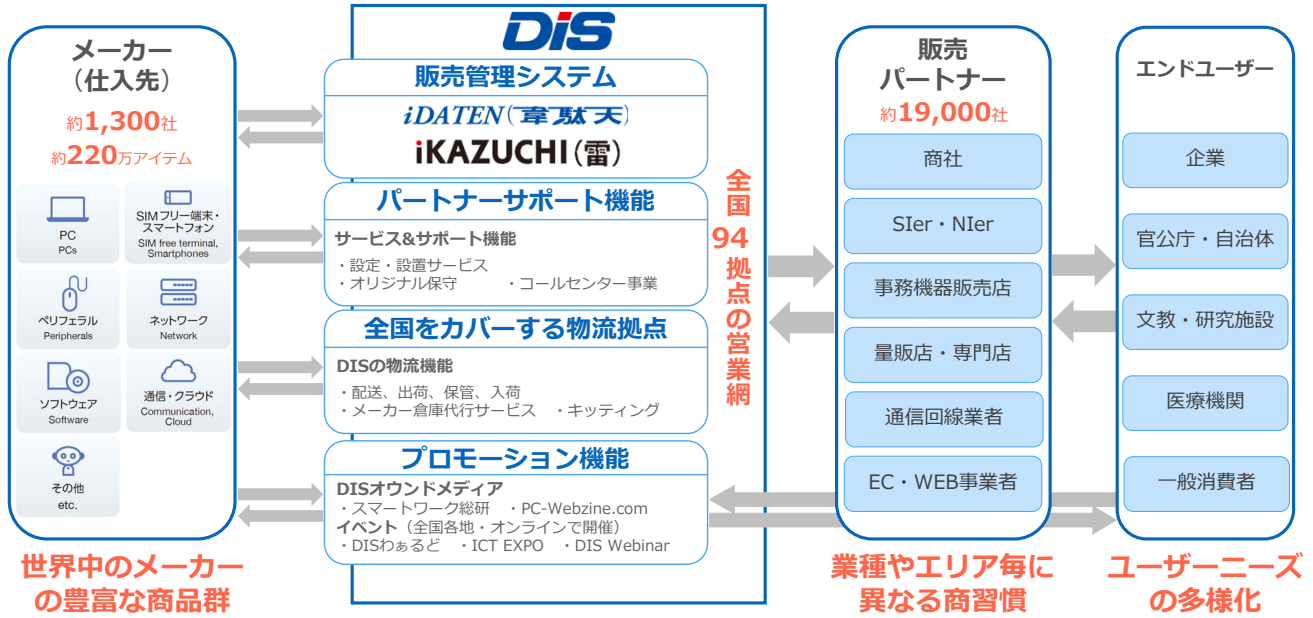
2019/3  
6,000億円突破

2020/3  
8,000億円突破

2021/3  
9,000億円突破

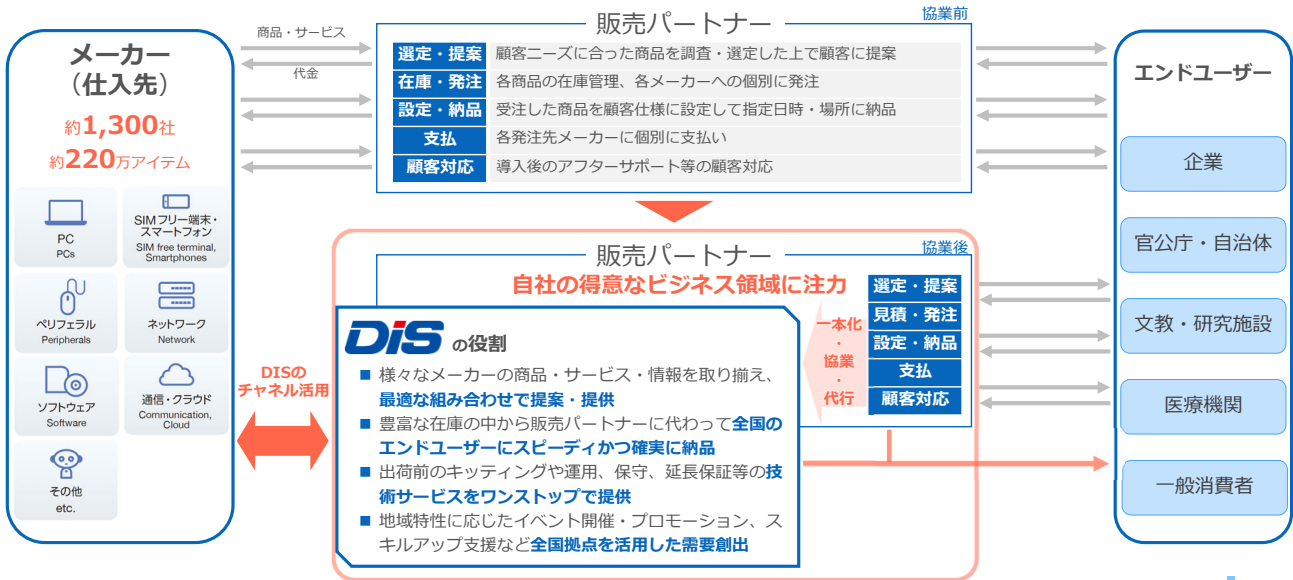
DIS単体  
売上高推移

# ITインフラ流通事業の事業構造



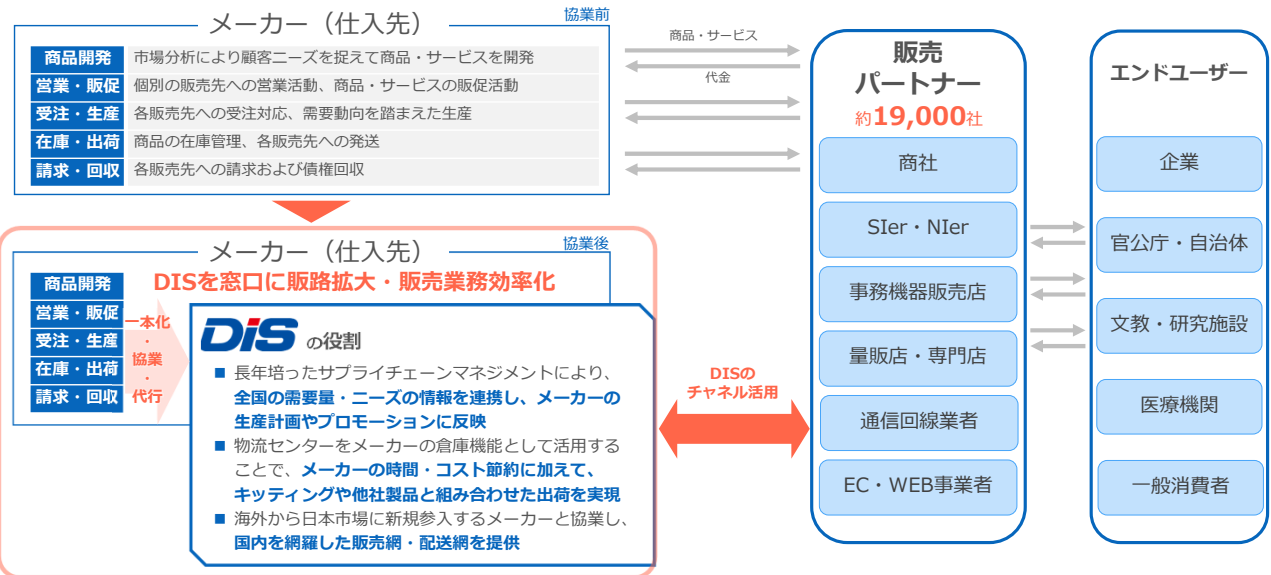
# ディストリビューターの付加価値

## 販売パートナー × DIS



# ディストリビューターの付加価値

## メーカー（仕入先） × **DIS**



# 物流センター効率化



## 関西センター（神戸市）



2020年5月本格稼働  
倉庫面積：36,342㎡

## 関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月本格稼働  
倉庫面積：44,753㎡



東西メガセンターを中心に  
効率化・生産性向上に注力

### ロボットストレージシステム

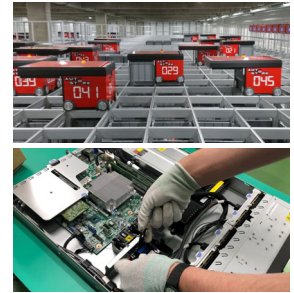
→作業効率・スペース最適化  
【ロボット稼働台数】  
関東中央：45台、関西：30台

### キittingセンター併設

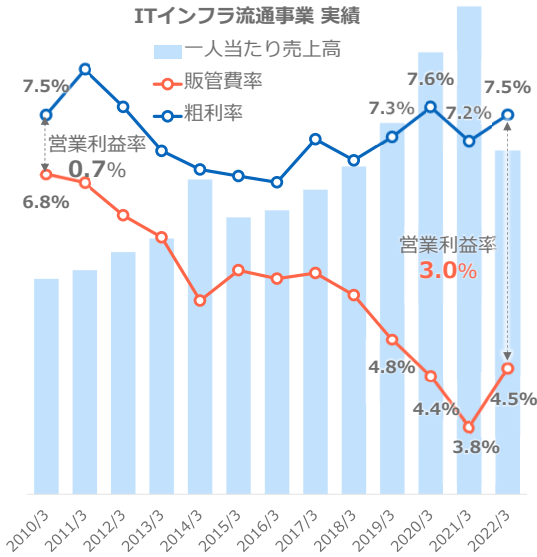
→入荷>作業>出荷に迅速対応  
PC・タブレット  
キitting実績：年間24万台（2022/3期）

### トラック予約受付システム

→入出荷情報の共有・車両平準化



# 営業効率化とローコストオペレーション



※連結調整を反映しておりませんのでセグメント実績とは異なります

## 営業活動強化

戦術に基づく売上拡大  
定型業務の効率化

継続的なシステム投資



## 電子商取引比率拡大

取引先を含めた生産性向上

メーカー  
(仕入先)  
約1,300社

EDI



## 物流効率化

物流コスト抑制  
在庫ロケーション最適化



基幹システム

物流センター

エンド  
ユーザー

# 繊維事業 — 製品事例 —



## 合織・レーヨン



- 紙おむつや生理用品などの衛生材用に使用される合成繊維
- 乳幼児用おしり拭きや除菌シート、フェイスマスクなどの生活資材に使用される不織布
- アスベスト代替として使用され、モルタルのひび割れを自己治癒することのできる繊維
- 木材パルプから生産される生分解性の高いレーヨンを使用した不織布製品・衣料製品

## 産業資材



- 化学・電子・食品業界など幅広く活用される不純物をろ過するフィルター
- トラック幌やテント倉庫に使用される重布、防水シートや緑化ネットなどの土木資材
- 自動車部品・家電など多様な用途に使用される高品質ゴムスポンジ製品
- 建設現場の防音シートや養生メッシュなどの各種産業用シート

## 衣料製品



- 機能性インナー、快適アウターなどの衣料製品
- リビング用素材および製品
- ライセンスブランド衣料品  
「FILA」 「T&C」 「Prince」 「NCAA」



## 立旋盤



- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,500**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジンの部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

## 車輪旋盤



- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

## 自動機械



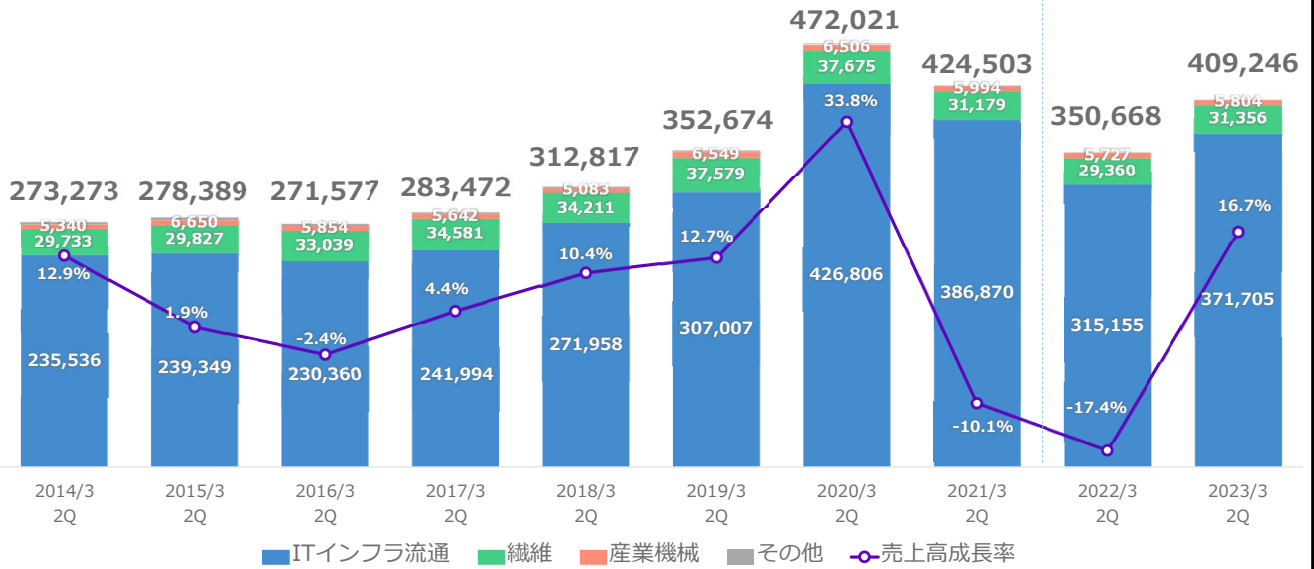
- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

# 連結売上高（2Q累計期間）



(百万円)

収益認識に関する  
会計基準の適用

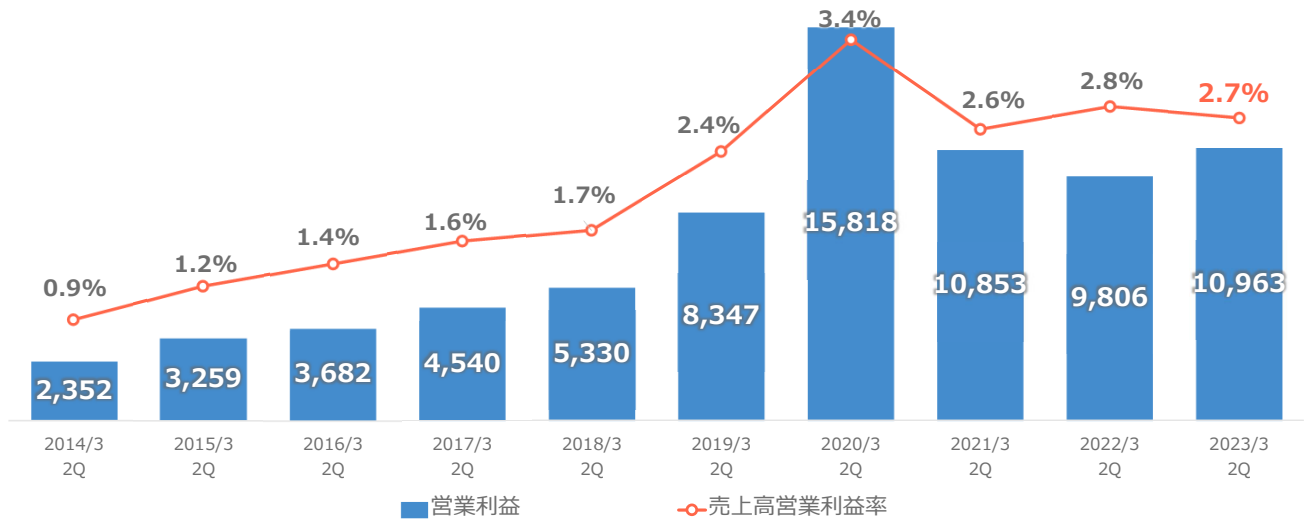


©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 連結営業利益（2Q累計期間）



(百万円)

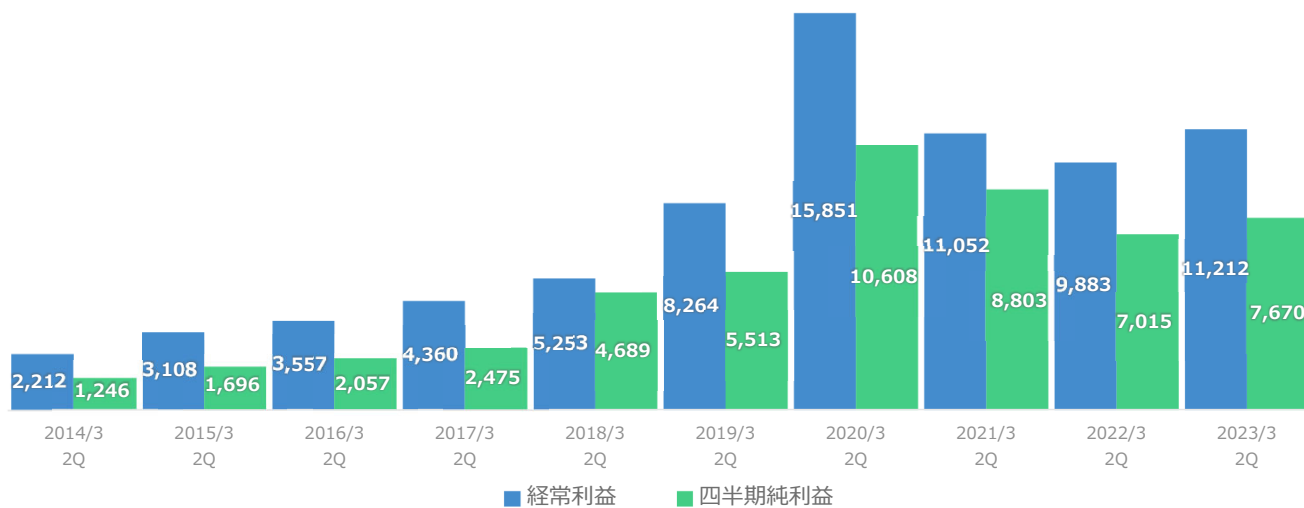


©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 連結經常利益・連結四半期純利益（2Q累計期間）



(百万円)



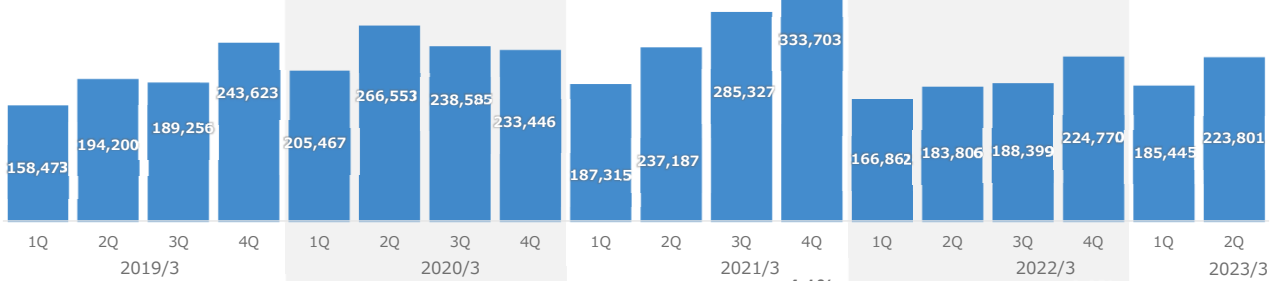
©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 四半期別業績



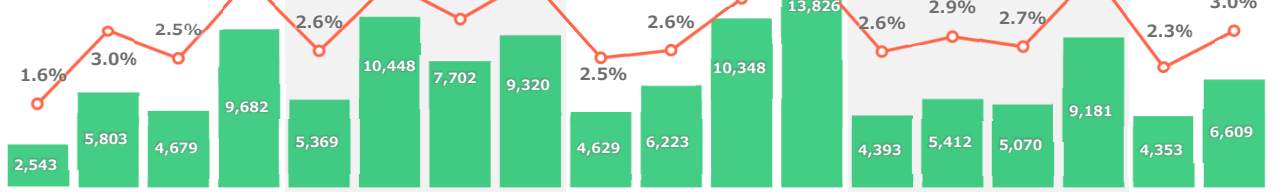
(百万円)

■ 連結売上高



■ 連結営業利益

○ 売上高営業利益率

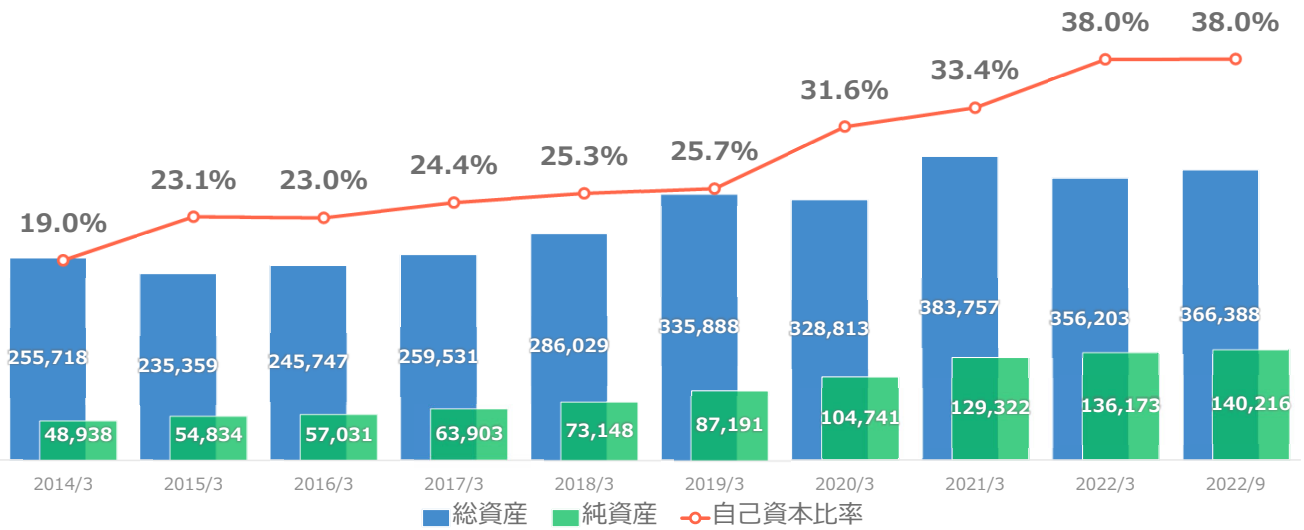


©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 連結総資産・連結純資産・自己資本比率



(百万円)

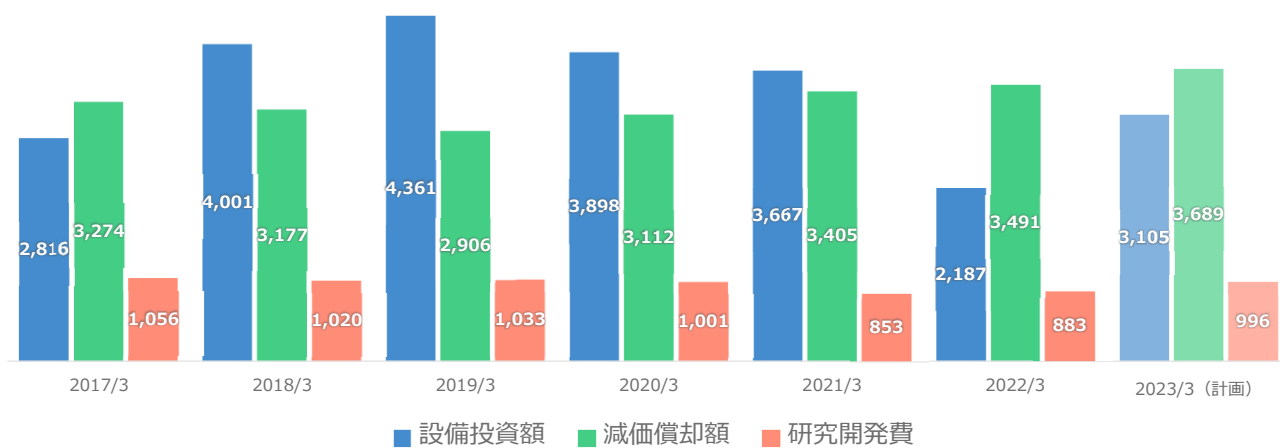


©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 設備投資額・減価償却額・研究開発費



(百万円)



©2022 Daiwabo Holdings Co., Ltd.



ダイワボウホールディングス株式会社

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ニュース

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html>

ダイワボウグループ一覧

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html>

沿革

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html>

#### 【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。